

事例報告（サンプル1）

記入年月日：2021年9月30日

氏名	[REDACTED]	所属	[REDACTED]
事例発生時期	2020年12月10日	事例終了時期	継続中
表題	不眠・不穏時処方の過量内服による副作用を回避し、他剤提案により症状改善できた症例		

記載上の注意：MS明朝10.5ptの黒文字を用いて記載し、以下の6つの項目を含め1枚に収めること。

1. 患者背景（介入に至るまでの経緯）

施設入居者。薬局変更により、訪問開始。

入居当初より、夜間不眠・不穏の訴えあり、プロチゾラムが定期で処方されているが、本人としては熟睡できておらず、効果不十分とのこと。また、当薬局で訪問開始後、お楽しみ経口摂取の際に何度も誤嚥をしており、その都度発熱が見られていた。その際に、呼吸苦が出現しており、不穏症状を増強させていた様子であった。その不穏症状に対して、エチゾラムの頓用が処方されており、使用頻度が増していった。

2. 介入が必要と考えられた問題点

エチゾラムの使用頻度が増えるとともに、痰の絡みが強くなり、口の渴きの訴えや表情の陥しさが増えて、時折呼吸苦や胸痛の訴えが始めた。また、薬局変更当初、定期処方の間隔が月に1回であり、充分に患者のことを把握できておらず、症状や様子の確認が不十分な中、発熱に対してアセトアミノフェン20%2g分2、痰絡みに対してアンプロキソールOD45mgが定期内服となり、就寝前薬がプロチゾラムOD0.25mg1錠からエチゾラム細粒1%0.025gに変更になっていた。薬剤の使用方法など、入居時の医師の指示から変更されていないところもあり、都合の良い解釈のまま施設内で使用されている様子が伺えた。

3. 介入の具体的な内容

エチゾラムの使用頻度を確認。1回0.025g（0.25mg力価）であり、高齢者の上限が1.5mg力価であることから、1日の使用回数を6回を超えないように施設看護師に説明。それでも不穏症状や表情の陥しさが取れず、介護側が不安に思うことが多くあり、エチゾラム依存からくる副作用と考えられ、漸減して中止することを医師に提案。就寝前薬として、筋弛緩作用の少ないエスピザクロン2mgを開始。不眠に大きな変化はなかったが、訴えは減った。しかしながら、不穏症状は続いている、胸痛の訴えが目立った。心電図に以上波形は見られず、医師よりチアブリド細粒10%0.25g分1夕食後、プレガバリンOD75mg2錠分2朝夕食後開始の指示あり、開始したところ、1ヶ月後より乳房の膨らみが目立ち、不穏症状改善されていないことからチアブリド中止となる。同時に、うつ症状が発現し、殺してくれ、という発言が聞かれるようになった。胃痙攣から溶かして入れることのできるミルタザビンOD15mgを提案し開始した。

4. 介入の結果および考察

エチゾラム完全中止となり、ミルタザビン開始後より不穏症状少しづつ改善され、胸痛の訴えも減り、表情に笑顔が戻ってきた。睡眠に関しても、夜間目が覚めることもあるが、「不眠である」という強い訴えにはつながっていないため、不眠も改善されたと考えられる。

5. 今後の課題

入居済みの患者で引き継ぐ際には、入居時指示を含む全ての薬剤情報に気を配る必要があり、抜けおちることで、過剰投与に発展する可能性があるため注意が必要である。

患者情報

（事例報告4）

年齢	80歳代	性別	男性	介護認定	要介護5
居住形態	住宅型有料老人ホーム	介入開始日	2019.9.24	介入終了日	継続中
疾患名	球脊髓性筋萎縮症、胃癌術後、労作性狭窄症				
所見	3年前に誤嚥性肺炎となり、呼吸不全で気管切開・人工呼吸器管理となった その後翌年に胃瘻造設				
医療系サービス	■訪問診療 ■訪問看護 □看護職員訪問による相談・支援 □訪問歯科診療 ■訪問薬剤管理指導				
介護系サービス	□訪問介護 □通所介護 □短期生活介護 ■施設入所（ ） □レンタル利用（ ） □その他（ ）				
特別な医療	処置内容：□点滴の管理 □中心動脈栄養 □透析 □ストーマの処置 ■酸素療法 ■気管切開の処置 □疼痛の管理 ■経管栄養				
特別な対応	特別な対応：□モニター測定（血圧、心拍、酸素飽和度等）				
褥瘡の処置	褥瘡の処置：□失禁への対応 ■カテーテル（コンドームカテーテル、留置カテーテル等）				
生活状況	ベッド上生活、下半身動かない。昼夜逆転傾向。食事は経腸栄養。経口摂取強い希望あるも、気管切開部より全て出てきてしまい、肺炎のリスクとなるため、医師・施設ともに不可となっている。妻と共に同施設に入所しており、食事・就寝時以外は常にそばにいる。				
精神状況	頑固。常に不安な表情（呼吸苦の出現に対する恐怖心あり）				

処方薬・サプリメント等の内容（薬品名、用法等）

介入前		介入後	
処方薬・サプリメント名	用法	処方薬・サプリメント名	用法
ラコールNF配合経腸用液	1200mL (300/回)	ラコールNF配合経腸用液	1200mL (300/回)
ビソプロロールフルマレ酸塩鏡 0.625mg	2錠分2朝夕食後	ビソプロロールフルマレ酸塩鏡 0.625mg	2錠分2朝夕食後
ダントリウムカプセル25mg	2C分2朝夕食後	ダントリウムカプセル25mg	2C分2朝夕食後
アスピリン「ヨシダ」	0.1g分1朝食後	アスピリン「ヨシダ」	0.1g分1朝食後
ランソプラゾールOD錠15mg	1錠分1朝食後	ランソプラゾールOD錠15mg	1錠分1朝食後
アムロジピンOD錠5mg	2錠分1朝食後	アムロジピンOD錠5mg	2錠分1朝食後
オルメサルタンOD錠20mg	1錠分1朝食後	オルメサルタンOD錠20mg	1錠分1朝食後
ツムラ大建中湯エキス顆粒（医療用）	15g分3毎食前	ツムラ大建中湯エキス顆粒（医療用）	15g分3毎食前
重カマ「ヨシダ」	2g分3毎食後	モビコール配合内用剤LD	6包分3毎食後
プロチゾラムOD錠 0.25mg	1錠分1就寝前	エスピザクロン錠 2mg	1錠分1就寝前
		ミルタザビンOD錠15mg	1錠分1就寝前
		プレガバリンOD錠75mg	2錠分2朝夕食後
		アンプロキソール塩酸塩徐放OD錠45mg	1錠分1朝食後

医療衛生材料等の対応（名称・規格等）

特になし

他の職種との共同指導等の内容

エチゾラムの高齢者上限について説明。細かく症状の変化を確認することで、医師・看護師・介護士・薬剤師間で薬剤による影響を随時情報共有していった。

その他、特記すべき事項

特になし

所見など事例解釈に必要な情報を記載する

生活や精神の状況の記載は事例の状態把握を促す

共同指導内容があれば記載する

表題は事例を端的に表す

事例の理解を促す背景を記載する

事例の問題点を明確に示す

介入経過を時間経過で示す

介入の結果とその後の経過を評価・考察する

事例を振り返ってからの課題を検証する